

NHK大河ドラマ

「江～姫たちの戦国～」ゆかりの城を歩く

山岸弘明

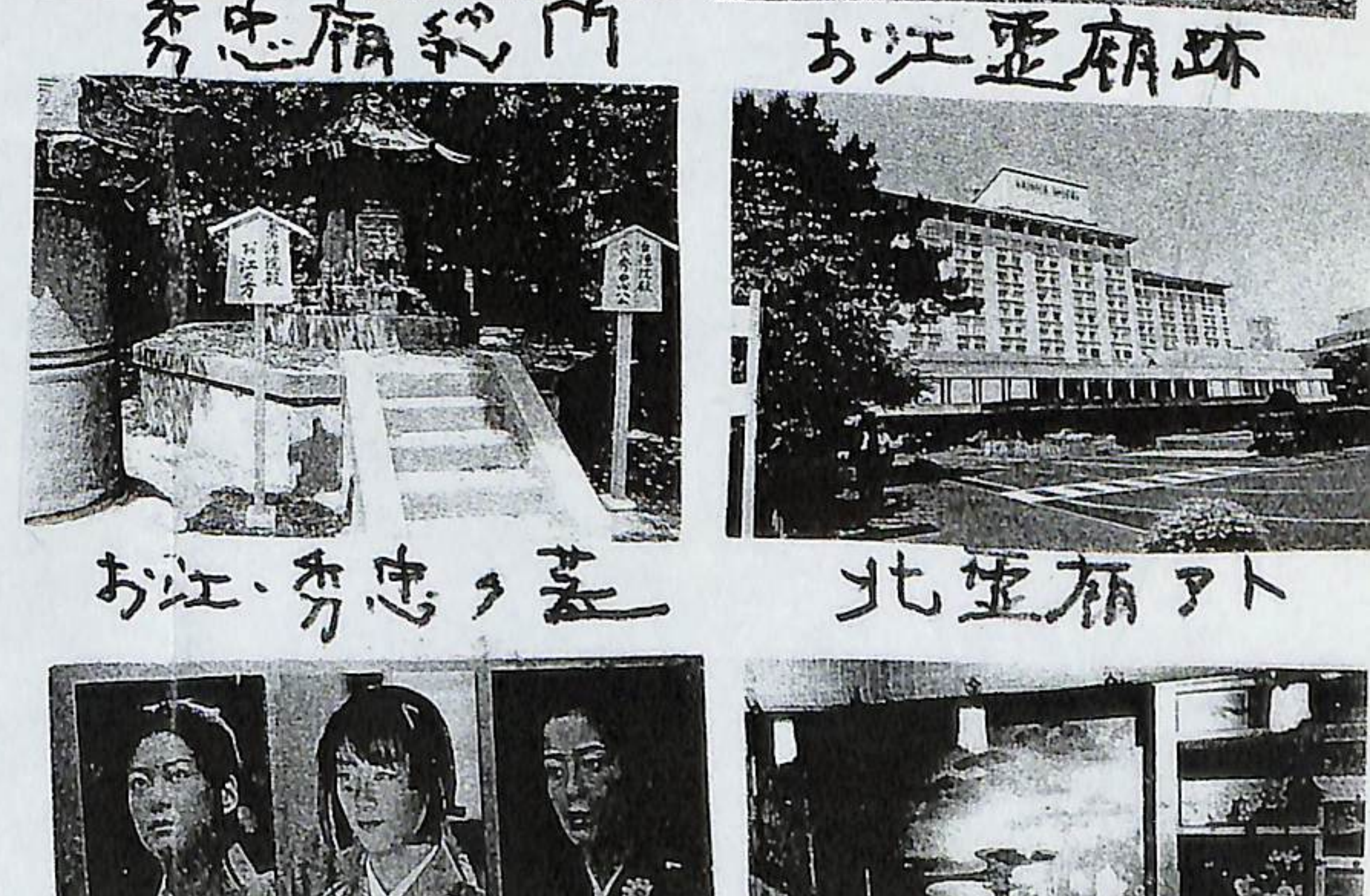
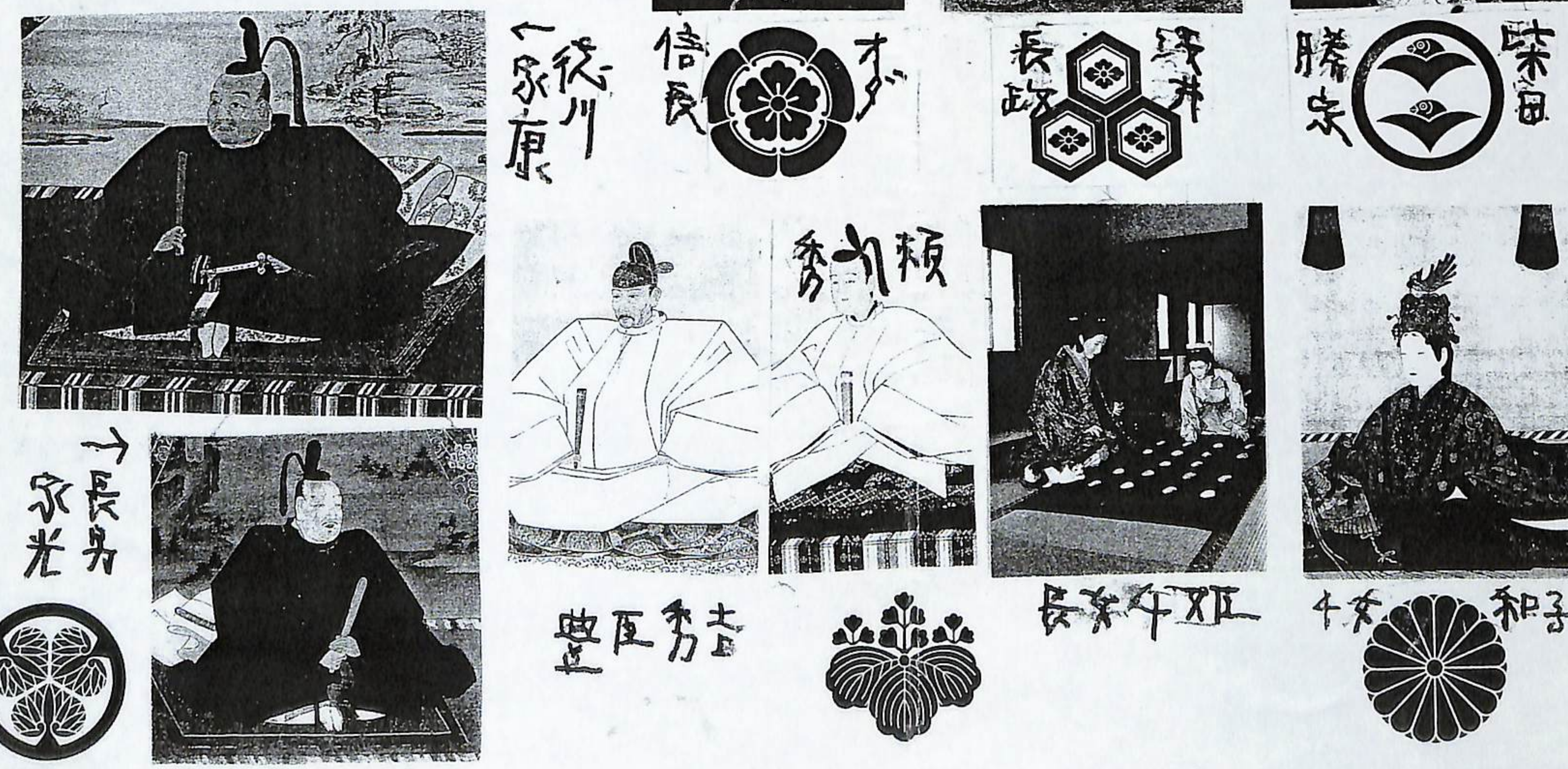
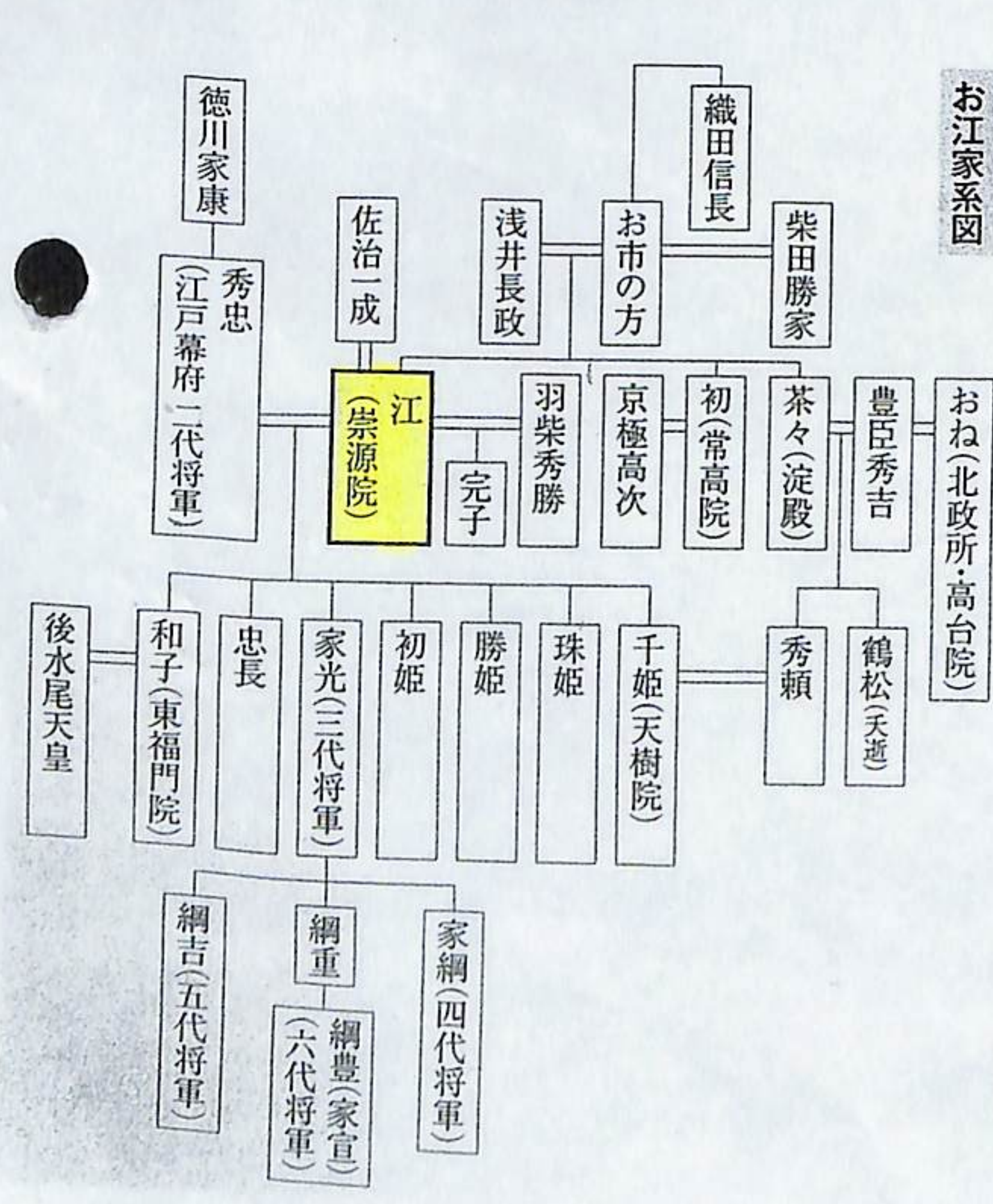
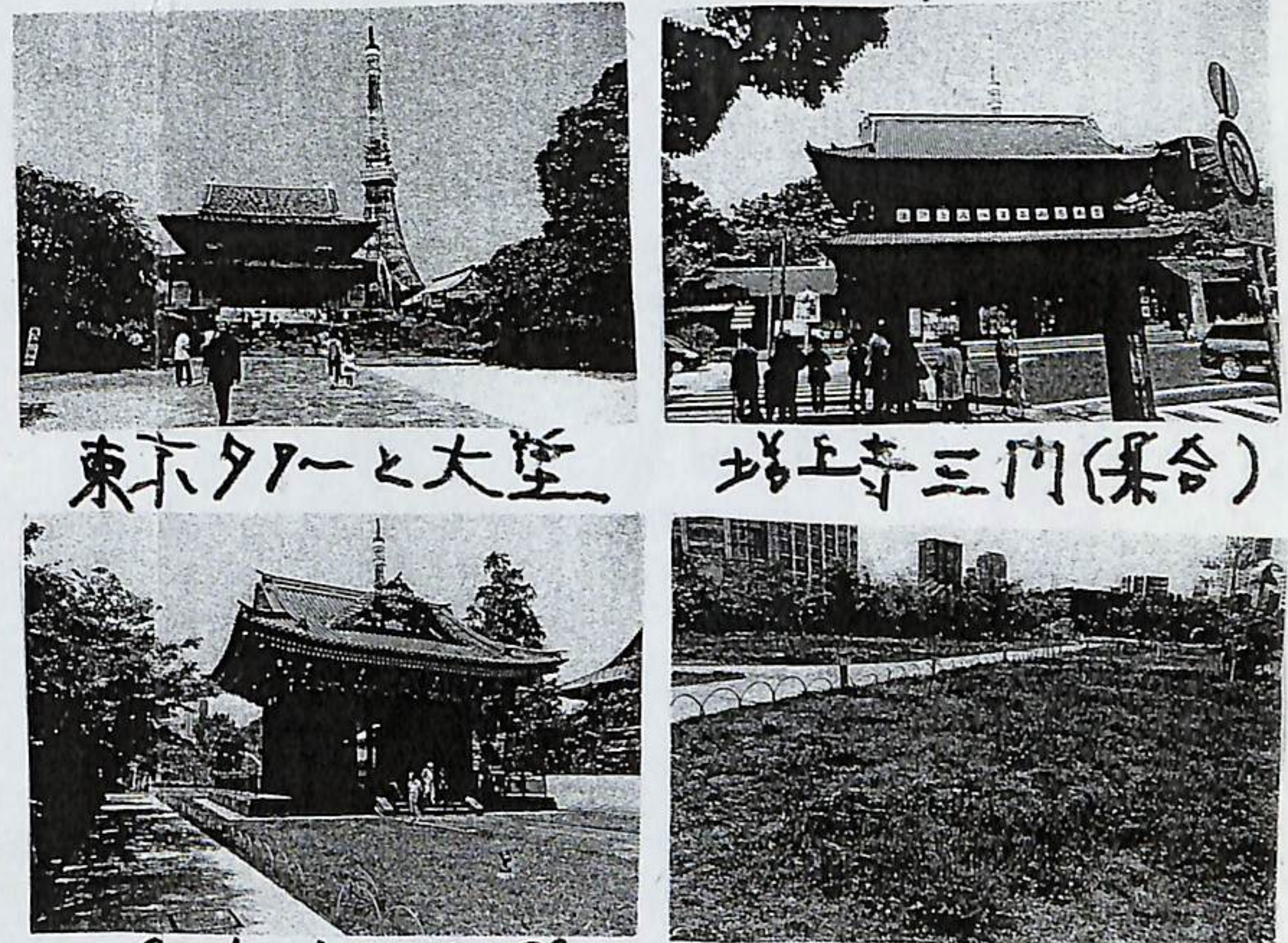


母は織田信長の妹お市、父は近江の戦国大名浅井長政。茶々、お初、お江の3姉妹は小谷城、北の庄城2度の落城で父と母を失う。男たちの権力争いの渦中に翻弄されながらもそれぞれの道を生き抜いた3人の娘たち、長女・茶々は豊臣秀吉の側室となり、秀頼の生母として権勢を振るうが、大坂の陣で夏の露と消える。2女・お初は1大名の正室としての生活をまっとうするが唯一の気がかり姉と妹、豊臣、徳川両家の取り持ちに奔走する。3女・お江が最後にたどり着いたのは日本一権力者の妻の座であった。将軍徳川秀忠の御台所として、息子は3代将軍、娘は天皇の中宮となる。彼女たちはこの波乱の人生をどのように切り開いたのだろうか。3人の娘たちが歩んだ苦難の道、戦国の女たちの生きざまを本会がこれまで訪ねたゆかり城でたどる。

華麗な血縁

次回(9/9)「お江ゆかりの芝居上寺川」と歩く

織田が搦き 羽柴がこねし天下餅 座して食らうは徳川家康 鳴かぬなら 殺してしまえほととぎす 織田信長=短期、自分勝手な性格 鳴かぬなら 鳴かせてみようほととぎす 豊臣秀吉=自信家 鳴かぬなら 鳴くまで待とうほととぎす 徳川家康=たなぼた お江(崇源院)の肖像画(京都養源院所蔵)=ずきん、黒衣、数珠(没後の肖像画) おだやかなやさしい人柄を伝えている。



「太閤大坂城」とともに散った長女茶々、将軍家の女として生きた3女お江、両家の 橋渡しに心を砕いた2女お初

戦国武将の女として強くしなやかに それぞれの人生を生き抜く

「江～姫たちの戦国～」 ゆかりの城を歩く

1) 織田信長、豊臣秀吉、徳川家康 時代に翻弄されながら華麗に生き抜いたセレブ母娘

系図参照

- ①織田信長=人気No.1の戦国武将。カリスマ性に富み、「天下布武」をかかげて安土城を築くが天下統一目前に本能寺で明智光秀に討たれた。3姉妹の母お市の兄、お江らのおじだがそれぞれ夫、父の敵でもあった。
- ②豊臣秀吉=信長の後継者。北の庄城でお市とその夫柴田勝家を滅ぼしたのち、3姉妹を引きとる。茶々を美貌の市にダブらせて側室にする。百姓から関白にのし上がった実力者だが、大河ドラマではひたすらバカ殿ぶりを発揮している。
- ③徳川家康=ライバル秀吉死去後豊臣家を滅亡させ、徳川幕府を開く。狸じじいは明治以降の悪評、天皇神格化のため徳川家が批判されたことで定着。お江ら3姉妹に深くかかわる。
- ④お市とお江ら3姉妹は戦国の乱世から太平の時代への転換期のヒロイン、戦国武将の女としてつよくしなやかにそれぞれの人生を生きぬく。

2) 戦国大名浅井(あざい)3代

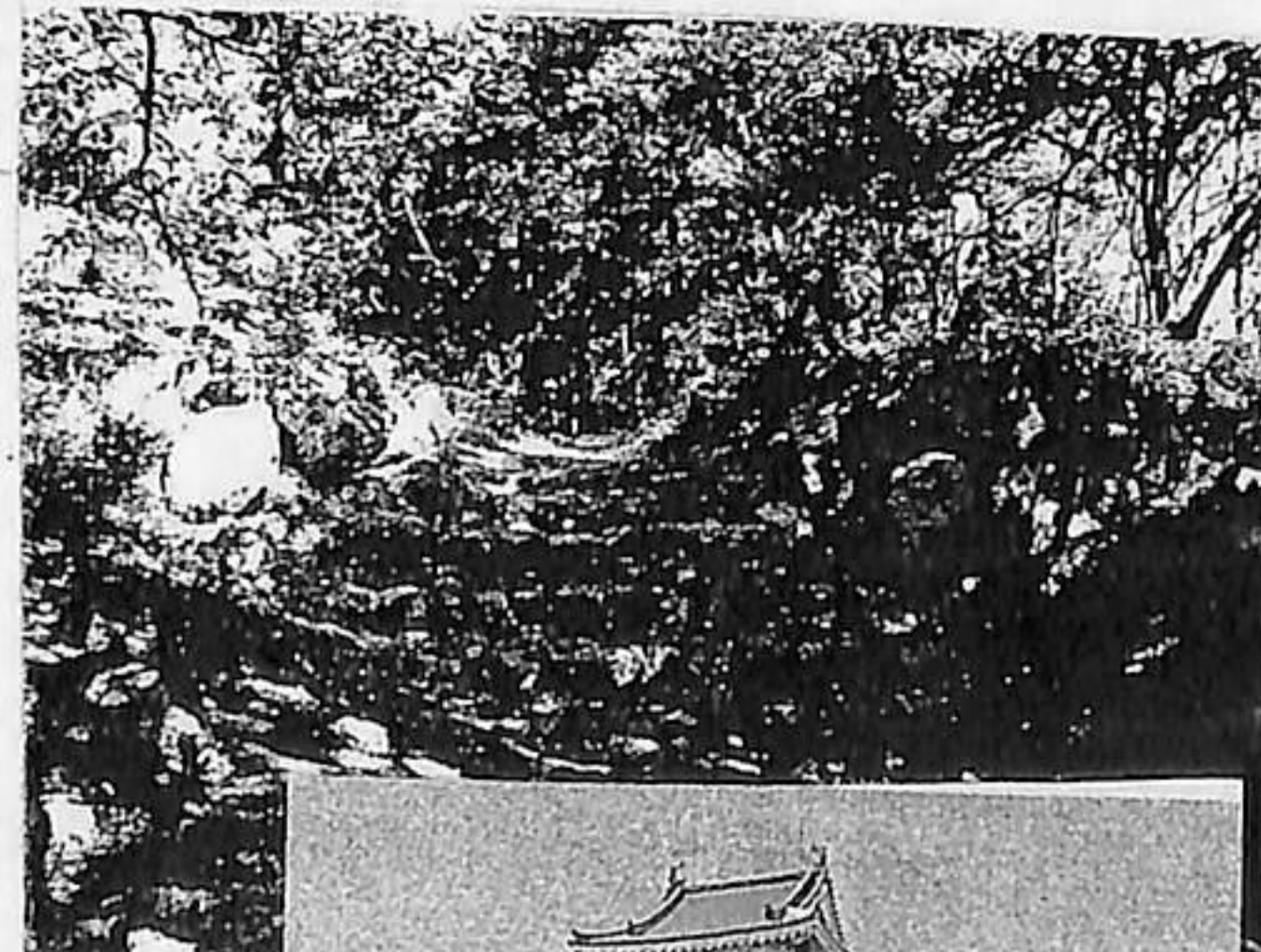
- ①出自に諸説。浅井郡丁野(よの=湖北町)の国衆から戦国大名へ。亮政、久政、長政3代50年間の小谷城主。
- ②長政は信長の妹お市と結婚して織田氏と同盟を結んだが、父祖以来の朝倉氏とのつながりも絶ちがたく、信長が朝倉氏を攻めたときに離反した。以後信長に攻められ姉川の戦いで敗走、小谷城に籠城したが天正元年(1573)信長の臣・羽柴秀吉に攻め落とされた。

3) 織田家長女のプライド、お江の母、お市

- ①天文16年(1547)生まれ、長政の2才年下。織田信長の妹。
- ②永禄4年(1561=大河ドラマは11年)信長の「遠交近攻」作戦で浅井氏に嫁入り。
- ③小谷落城の時、長政はお市と3姉妹を信長の元に返す。大河ドラマでは城門が閉じられ、燃え盛る小谷城を見上げるながら秀吉の下に降る母娘の姿が印象的だった。
- ④お市らははじめ尾張清洲城、のち伊勢に移される。
- ⑤天正10年(1582)信長が本能寺で殺害され、清洲会議の結果、後継者は羽柴秀吉の傀儡、嫡孫三法師に決まる。
- ⑥お市は信長3男信孝の斡旋で秀吉のライバル柴田勝家と再婚、3姉妹を伴って北の庄城に入る。
- ⑦天正11年4月夫勝家は賤ヶ岳で秀吉と戦うが敗れ北の庄に逃げ帰った。城は秀吉に包囲され、運命を悟った勝家はお市に退去を促すが勝家との自害を選ぶ。行年36才。織田家長女としてのプライドを守った戦国の女の最後でもあった。



長浜市内に立つ長政お市親子像



↑小谷城



長浜城

4) 「太閤」大坂城とともに散った3姉妹の長女・茶々(淀)

- ①永禄12年(1569)長政とお市の長女として誕生。天正16年(1588)ころ豊臣秀吉の側室となる。
 - ②第1子鶴松を産むが3才で病死。文禄2年(1593)第2子秀頼を誕生。
 - ③慶長3年(1598)秀吉逝去、8年徳川秀忠の娘千姫を秀頼の妻に迎える。
 - ④慶長19年大坂冬の陣、翌年夏の陣で秀頼とともに自害。
 - ⑤悪女イメージが定着、豊臣家滅亡の元凶、不倫説も。
- ## 5) 豊臣、徳川家の橋渡しに心を砕いた次女・はつ(常高院)
- ①元亀元年(1570)生まれ。京極高次に嫁す。夫死後、豊臣、徳川家をつなぐ使者役などを果たす。
 - ②晩年は江戸京極藩邸で生活、寛永10年64才没。
- ## 6) 徳川将軍家の女として生きた3女・お江(督、江与=おくりな崇源院)
- ①天正元年(1573)生まれ。この年小谷城落城で父を失い、11年北の庄城落城で母を失う。以後秀吉の庇護下におかれ、15年ころ佐治一成に嫁入りするが離縁。
 - ②文禄元年(1592)秀吉のいところで養子、羽柴秀勝と再婚するが秀勝は朝鮮の役で戦病死。
 - ③文禄4年秀吉の養女として6才年下の徳川秀忠の妻となり、2男5女を産む。
 - ④慶長5年家康が関が原の合戦勝利、8年徳川幕府創設、10年秀忠の2代将軍就任で御台所と称される。
 - ⑤長男家光を託すことになった乳母・春日局はおじ信長を殺害した光秀家老の娘でお江の仇相手でもある。忠長誕生後はこれを溺愛して春日局と対立するなど確執が続いた。
 - ⑥寛永元年秀忠隠居して大御所、お江は大御台所となり、西の丸に移る。
 - ⑦寛永3年夫に先立って江戸城西の丸で逝去、54才。秀忠は寛永9年没、同じく54才であった。

7) 栄華を極めたお江の子女とその子孫

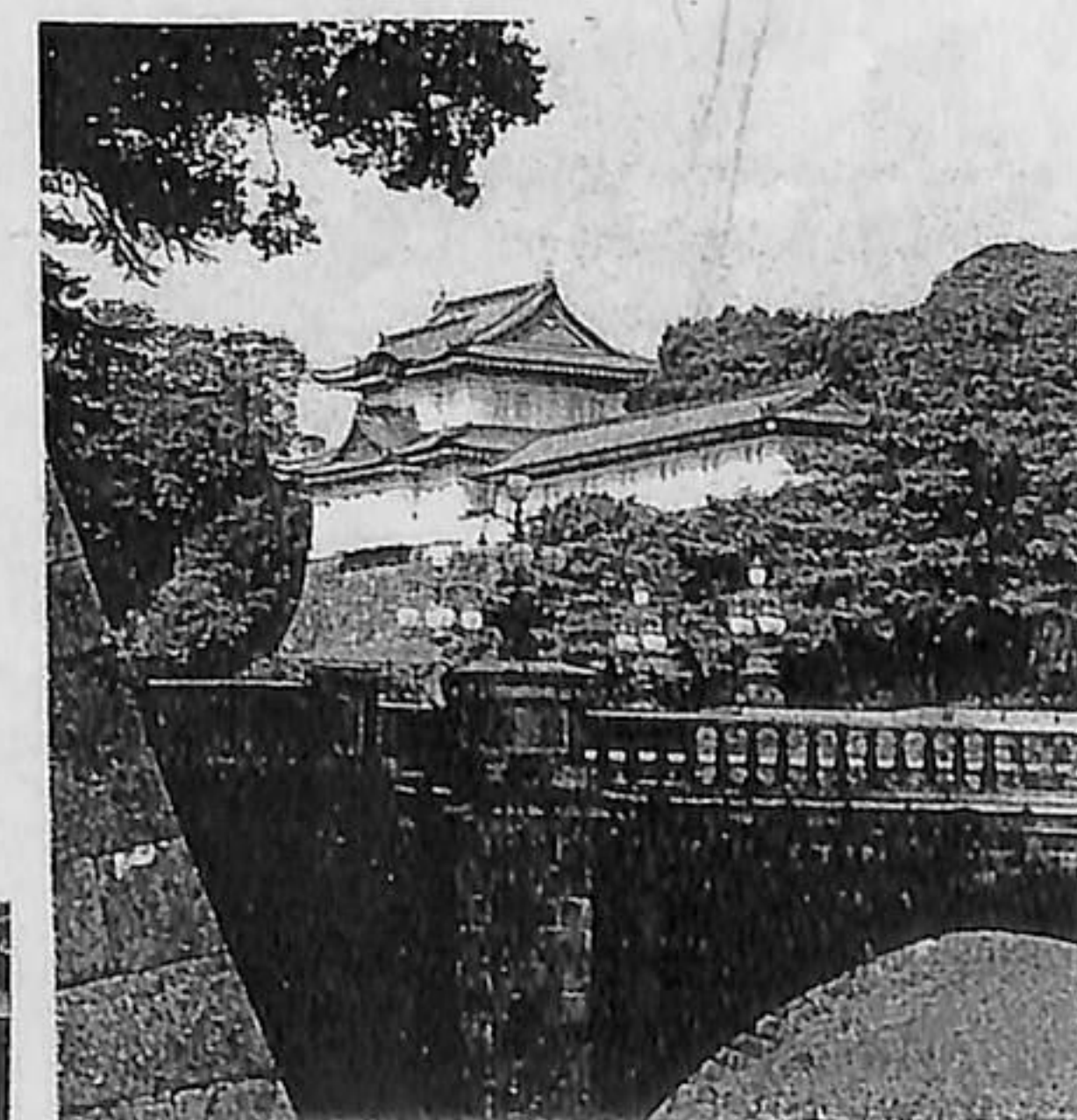
- ①長男・家光=3代将軍となり徳川幕府基盤を確立する。墓所ははじめ寛永寺でのち日光の家康東照宮廟に隣接する輪王寺に移葬された。
- ②次男・忠長=駿河大納言50万石。のち兄といさかい自害を命じられる。
- ③長女・千姫=7才で豊臣秀頼に嫁すが大坂落城のとき夫助命嘆願のため脱出。のち本多忠刻に再嫁、一時姫路城西の丸に暮らし化粧櫓を残す。墓所は伝通院。
- ④4女和子=後水尾天皇の中宮で明正天皇(女性)の生母。つねに天皇家と徳川家との軋轢回避に心を砕かねばならない心労の生涯であったとされる。京都月輪陵に眠る。
- ⑤2女珠姫は加賀前田家、3女勝姫は越前松平家に興入れ、5女初姫は子供のなかったお初の養女に迎えられた。
- ⑥嫡男家光の子孫は歴代将軍家を継承、和子は天皇家に織田、浅井、徳川の血統を残した。
- ⑦千姫と秀頼との間に子はなかったが、秀頼側室の子・天秀尼を養女とした。天秀尼は助命されて鎌倉東慶寺の尼となり、駆け込み寺の発展に寄与した。



茶々が秀頼と運命を共にした大坂城



淀城跡



お江の決地 江戸城西の丸

7) 「城を歩く会」で回ったゆかりの城とまだ回っていない城

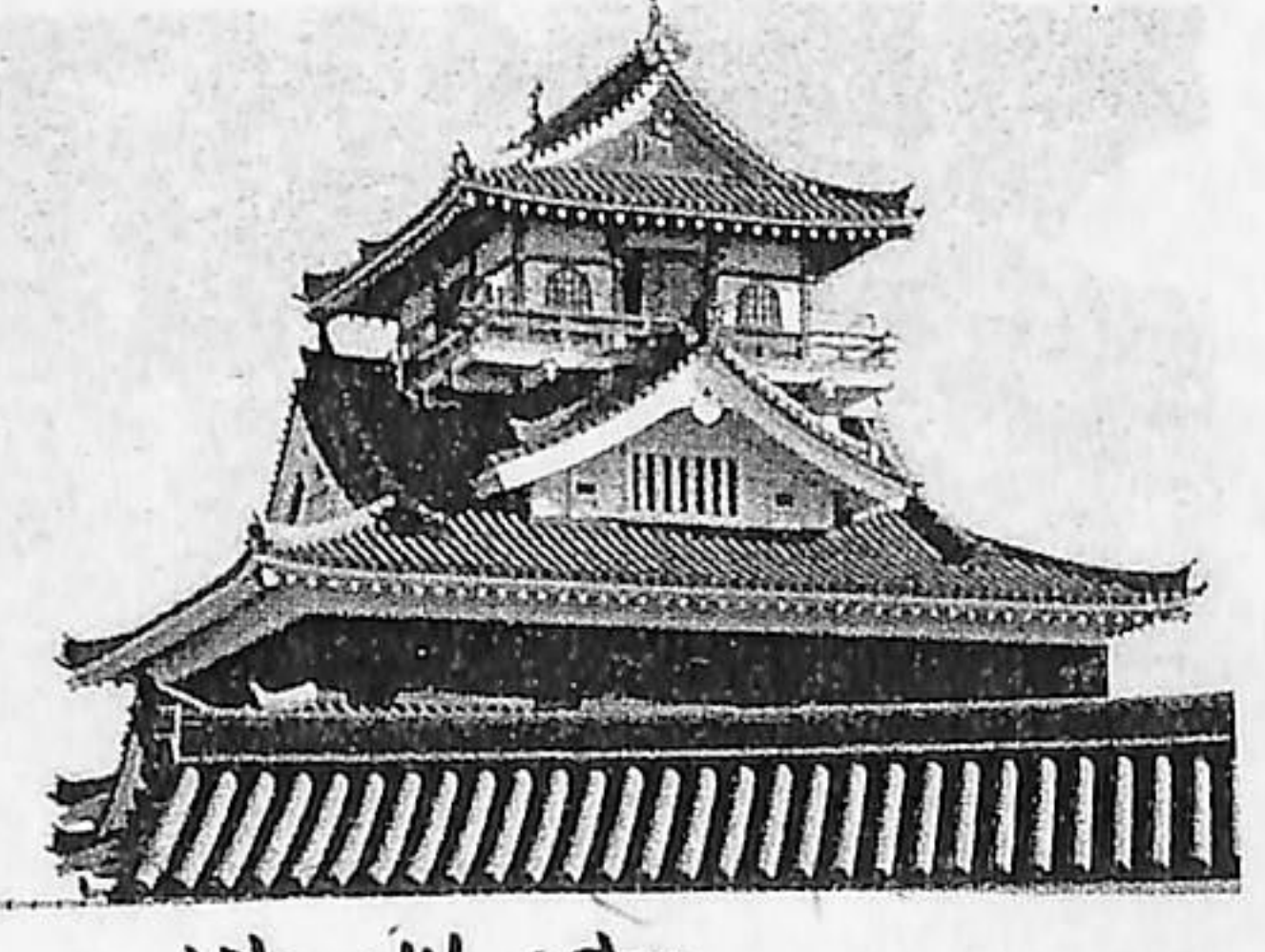
- ①安土城=信長が「天下統一」の拠点として天正4年築城、総石垣造り、豪壮な5重7階天主と城下は近世城郭の始まりとする。天正10年本能寺後の山崎の戦いで焼失、本会では平成15年と22年に往訪、総石垣造りの主郭、天主を再現した「信長の館」に感動。
- ②小谷城=大永年間浅井亮政築城、3代長政は勢力の拡大をはかるため信長と結ぶが、朝倉攻めで突然反旗を翻した。信長は矛先を浅井氏に向け、姉川で朝倉・浅井連合軍を破り、天正元年に落城させた。自然地形を利用した郭群や崩れかけた石垣、空堀などが現存する。お江は母お市に抱かれて脱出、秀吉軍に降った。平成15年の会で遠望、解説があった。
- ③長浜城=天正2年羽柴秀吉築城。浅井氏の旧領を与えられたが不便なため湖岸の今浜に新城を作って移った。琵琶湖の水を引き込んだ3重の堀と石垣で囲み、本能寺の変後は柴田勝豊が入城、勝家敗死後秀吉方、元和元年に廃城となった。博物館の模擬天守、湖中の太閤井戸を平成15年に見学。
- ④一乗谷朝倉館=父長政の盟友で越前を支配した朝倉5代100年間の本拠、平成22年に一乗谷沿いの城下町と朝倉館跡を回った。
- ⑤清洲城=弘治元年信長が斯波氏を攻めて那古野城から移った桶狭間出陣の城、小谷から戻ったお市と3姉妹が生活した。のち徳川義直が城下ごと名古屋に移して廃城。平成12年に往訪。
- ⑥津城、伊勢上野城=小谷城落城からお市が勝家に嫁ぐまでの9年間の多くを伊勢に移されたともいう。津城の前身=安濃津城局丸に居住。本会では平成21年に藤堂高虎縄張りの津城を見学した。伊勢上野城は津城から10kmほどの小山。天守台跡からは伊勢湾が一望できる。
- ⑦北の庄城=天正3年朝倉氏の旧領越前49万石を与えられた勝家が9重の天守を持つ壮大な城と城下を築く。信長の死後、秀吉と勝家のライバル争い激化の中お市が再婚。しかし翌年賤ヶ谷の戦いで敗れ落城した。平成22年の会で後身・福井城と訪ねた。石垣根石列や柴田神社氏子建立の勝家銅像、お市と3姉妹史跡看板が思い出される。
- ⑧北の庄城を脱出した3姉妹は秀吉の元に引き取られる。間もなく大坂城築城が始まり姉妹は移り住むがお江も一緒だったかどうかは未詳。
- ⑨大野城=天正12年お江の初婚相手、お市姉の子佐治一成5万石の居城、伊勢湾を望む青海山に立地する。秀吉は天下統一に目障りな信雄対策としてお江を送り込んだが小牧・長久手の戦いで離反したのでお市を離婚させ所領を没収した。



昨年7-酒旅行「安土城」



大野城



清洲城



北の庄城跡(昨年)

- ⑩大坂城=天正11年豊臣秀吉が天下取りの拠点として築城開始。5重8階黒漆塗り、金箔瓦、金の飾り金具をつけた豪華な望楼型天守を完成させた。お江は佐治一成と離婚あと再婚までの8年間ほどを大坂城で暮らした。茶々が秀吉の側室になるのもこのころ、慶長3年秀吉が病死すると秀頼の生母として従い政治にも影響力を発揮した。慶長20年大坂夏の陣で落城、母子は自害する。秀忠は徳川への政権交代を天下に知らしめるため豊臣大坂城の上に盛り土をして巨大な新天守を築いたが、明治維新の混乱で焼失、現在の天守は昭和6年再建の復興鉄筋コンクリート造りになっている。
- ⑪岐阜城=戦国時代の斎藤道三稲葉山城。美濃支配を進めた信長が攻め落とし、岐阜城と改めて山麓に居館を設けた。お江の2度目の夫は秀吉が後継者と定めた羽柴秀次の弟で養子の秀勝、家族一員として岐阜城を与えられたが、文禄元年9月朝鮮出兵中病死、結婚生活はわずか7か月にすぎなかった。
- ⑫伏見城=秀吉晩年の居城で没地。寛永はじめ廃城、現状は大半が明治天皇御陵地で民間遊園地に模擬の桃山城が立つ。文禄4年お江24才、秀忠との新婚の地で長子の千姫が生まれた。
- ⑬淀城=天正17年茶々の産所として築城、鶴松が誕生するが早世、永禄3年明使者を迎えるため築城中の伏見城建設資材として取り壊された。
- ⑭小浜城=慶長5年お初の夫京極高次若狭国8万石居城、城の大半は明治の火災で焼失したが、天守台、石垣などが現存している。
- ⑮江戸城=天正18年家康が関東入府にあたり太田道灌の旧城を利用した。秀忠が幕府首府として拡大、3代家光の時完成した。お江の江戸城での暮らしは慶長3年26才ころから。将軍御台所として秀忠を支え、江戸城大奥の基盤を確立した。当初は西の丸に居住、御台所就任後は本丸御殿で、秀忠が隠居した元和9年から西の丸(現皇居)に戻り最後の地となった。

8) 東京周辺にあるお江ゆかり地

- ①江戸城=お江は慶長4年から亡くなる寛永3年まで居住。居所は本丸と西の丸であった。(前出)
- ②芝増上寺=寛永3年9月15日没、芝増上寺で葬儀、当時めずらしい火葬であった。寛永5年2男忠長が御霊屋を構築、忠長自害後家光が立て替え、旧建物は鎌倉建長寺などに移築された。再建霊廟は昭和20年の昭和戦災で秀忠の木造宝塔墓とともに焼失したが、お江の石造徳川型宝塔墓は現存、徳川將軍家墓所で秀忠を合祀している。
- ③小石川伝通院=徳川將軍家菩提寺。お江と秀忠の長女・千姫の墓、家康の生母お大の墓がある。
- ④目黒祐天寺=お江宮殿(くうでん)所蔵、祐天寺はお江化粧料跡地に享保3年創建、8代將軍吉宗の命で忠長建立の駿河宝台院宮殿が寄進された。
- ⑤行徳徳願寺=家康の帰依で建立、本尊阿彌陀如来は北条政子が運慶に彫刻させたとされ、家康がお江のため鎌倉から江戸城に移したが、逝去後当寺に寄進された。
- ⑥鎌倉建長寺=忠長が増上寺に建立した御霊屋を移築、仏殿として現存している。唐内も
- ⑦鎌倉東慶寺=お江が中興、秀頼遺児・養女天秀院の墓がある。
- ⑧狭山市狭山不動=お江霊廟の丁字(ていじ)門と秀忠霊廟の移築勅額門、御成門がある。



祐天寺くう殿



建長寺移築霊廟



行徳寺のお江念持仏

